

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 29 年 5 月検出分; 検体採取平成 29 年 1 月 ~ 平成 29 年 5 月)

平成 29 年 6 月 13 日

鳥取県衛生環境研究所

1 インフルエンザウイルス

臨床診断名がインフルエンザの検体 3 件 (検体採取 5 月上旬、中旬) について検査を実施したところ、すべてインフルエンザウイルス B 型が検出されました。これら 3 件については 2 件 (番号 170126、170135) が山形系統、1 件 (番号 170136) がビクトリア系統でした。

また、臨床診断名がインフルエンザ様疾患の検体 2 件 (検体採取 4 月下旬、5 月上旬) についても検査を実施しましたが、すべてインフルエンザウイルスは検出されませんでした。

現在までに鳥取県内で検出されたインフルエンザウイルスは表 1 (P.3) のとおりです。

さらに 2017 年 1 月から 3 月に当所で分離された A2009 型 3 件についてタミフル耐性遺伝子検査を実施しました。その結果、1 件 (検体採取 2 月下旬・番号 170077) は感受性、2 件は判定不能 (ウイルス量不足のため) でした。全国の薬剤耐性解析状況は表 2 (P.4) のとおりで、今シーズンにおけるオセルタミビルおよびペラミビルに対する耐性株の割合は現在のところ 1.2% であり、例年と同じくらいの割合となっています。

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体 6 件 (検体採取 2017 年 4 月) について検査を行いました。ノロウイルスについては、2 件 (番号 170128、170130) からノロウイルス G が検出されました。ノロウイルスが検出されなかった検体 4 件について、サポウイルスおよび A 群ロタウイルスの検査を実施したところ、1 件 (番号 170127) から A 群ロタウイルスが検出されました。さらに、ノロウイルス、サポウイルスおよび A 群ロタウイルスがいずれも検出されなかった 3 件についてアデノウイルス 40/41 型、アイチウイルスおよびアストロウイルスの検査を実施したところ、1 件 (番号 170125) からアストロウイルスが検出されましたが、残る 2 件からはいずれのウイルスも検出されませんでした。

3 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎である検体 1 件 (検体採取 5 月上旬・番号 170134) について検査を行いました。ムンプスウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルス、ヘルペスウイルスについて検査を行ったところ、ムンプスウイルスが検出されました。

病原微生物検出情報 (6 月 2 日作成) によると、本年、国内の無菌性髄膜炎患者から検出されたウイルスの中では、ムンプスウイルスが最も多く報告されています。(P.5 表 3 11 件 / 56 件 = 19.6%)

4 流行性耳下腺炎

臨床診断名が流行性耳下腺炎の検体 1 件（検体採取 4 月下旬・番号 170131）について検査を実施しましたが、ムンプスウイルスは検出されませんでした。

5 ヘルパンギーナ

臨床診断名がヘルパンギーナの検体 1 件（検体採取 5 月上旬・番号 170132）について検査を実施しましたが、エンテロウイルスは検出されませんでした。

6 突発性発疹

臨床診断名が突発性発疹の検体 1 件（検体採取 4 月下旬・番号 170121）について検査を実施しましたが、ヘルペスウイルスは検出されませんでした。

7 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体 2 件（疑いを含む。検体採取 4 月下旬、5 月上旬）について検査を行いました。1 件（番号 170133）からはアデノウイルスは検出されず、残り 1 件は検査中です。

8 A 群溶血性連鎖球菌感染症

臨床診断名が A 群溶血性連鎖球菌感染症の検体 1 件（検体採取 4 月中旬・番号 170120）について検査を行いました。A 群溶血性連鎖球菌は分離されませんでした。

表1 鳥取県インフルエンザウイルス検出状況(2016年9月-6月13日時点)

注) 病原体定点等からの「インフルエンザ、インフルエンザ様疾患」診断検体からの検査結果(1/1)								
年	検体採取時期 月日	検体採取場所	検出数	A型別、B系統別				備考
				A2009型	AH3型	B victoria	B 山形	
2016	11月8日	中部	1	0	1	0	0	
	12月20日	西部	1	0	1	0	0	
2017	1月4日	中部	1	0	1	0	0	
	1月5日	西部	1	0	1	0	0	
	1月6日	東部	1	0	1	0	0	
	1月10日	西部	1	0	1	0	0	
	1月11日	東部	1	0	1	0	0	
	1月13日	中部	1	0	1	0	0	
	1月16日	東部	1	0	1	0	0	
	1月16日	西部	1	0	1	0	0	
	1月19日	東部	1	0	1	0	0	
	1月23日	西部	1	1	0	0	0	
	1月26日	東部	1	0	1	0	0	
	1月26日	中部	1	0	1	0	0	
	1月30日	西部	1	0	1	0	0	
	1月31日	東部	1	0	1	0	0	
	2月2日	東部	1	0	1	0	0	
	2月2日	中部	1	0	1	0	0	
	2月6日	東部	2	0	2	0	0	
	2月6日	西部	1	0	1	0	0	
	2月8日	西部	1	0	1	0	0	
	2月9日	東部	1	0	1	0	0	
	2月9日	中部	1	0	1	0	0	
	2月9日	西部	1	0	1	0	0	
	2月13日	東部	1	0	1	0	0	
	2月13日	西部	1	0	1	0	0	
	2月18日	東部	1	0	1	0	0	
	2月20日	東部	1	0	1	0	0	
	2月20日	中部	1	1	0	0	0	
	2月20日	西部	1	0	1	0	0	
	2月23日	東部	1	0	1	0	0	
	2月27日	東部	1	0	1	0	0	
	2月27日	西部	1	0	1	0	0	
	2月27日	中部	1	1	0	0	0	
	3月6日	西部	1	0	1	0	0	
	3月8日	東部	1	0	1	0	0	
3月10日	東部	1	0	1	0	0		
3月13日	中部	1	0	1	0	0		
3月14日	東部	1	0	1	0	0		
3月14日	西部	1	0	1	0	0		
3月16日	東部	1	0	1	0	0		
3月16日	中部	1	0	1	0	0		
3月21日	西部	1	0	1	0	0		
3月24日	東部	1	0	1	0	0		
3月29日	西部	2	0	2	0	0		
3月30日	東部	1	0	1	0	0		
4月5日	西部	1	0	1	0	0		
4月10日	西部	1	0	1	0	0		
4月11日	中部	1	0	0	1	0		
4月18日	西部	1	0	0	1	0		
4月24日	東部	1	0	1	0	0		
4月24日	西部	1	0	0	0	1		
5月2日	西部	1	0	0	0	1		
5月13日	西部	1	0	0	0	1		
5月18日	西部	1	0	0	1	0		
病原体定点PCR検査合計 (2016年 11/8 - 現在)			57	3	48	3	3	

表2 2009/10シーズン以降の国立感染症研究所におけるA2009型分離・検出報告数、薬剤耐性解析数および薬剤耐性株数
(括弧内は耐性解析数における耐性株の割合(%))

シーズン	分離・検出報告数	オセルタミビル	パラミビル	オセルタミビル パラミビル 耐性解析数	ザナミビル	ラニナミビル	ザナミビル ラニナミビル 耐性解析数	アマンタジン	アマンタジン 耐性解析数
2016 / 17	234	2 (1.2)	2 (1.2)	165	0	0	140	2 (100)	2
2015 / 16	3512	44 (1.9)	44 (1.9)	2326	0	0	276	101 (100)	101
2014 / 15	63	0	0	43	0	0	27	17 (100)	17
2013 / 14	3495	105 (4.1)	105 (4.1)	2531	0	0	336	43 (100)	43
2012 / 13	162	2 (1.8)	2 (1.8)	111	0	0	105	43 (100)	43
2011 / 12	15	0	0	11	0	0	9	9 (100)	9
2010 / 11	4538	78 (2.0)	78 (2.0)	3844	0	0	256	99 (100)	99
2009 / 10	13261	79 (1.0)	79 (1.0)	8145	0		694	7 (100)	7

出典：国立感染症研究所HP 抗インフルエンザ薬剤耐性株サーベイランス (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/influ-resist.html>)

表3 無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス（2017・2016年）

2017		2016	
1 Echovirus 6	4	136	21.0%
2 Echovirus 9	3	88	13.6%
3 Coxsackievirus A9	1	31	4.8%
4 Coxsackievirus B1	1	21	3.2%
5 Other enterovirus	-	19	2.9%
6 Mumps virus	11	18	2.8%
7 Other virus	36	15	2.3%
Total	56	11	1.7%
		8	1.2%
		38	5.9%
		84	13.0%
		178	27.5%
		647	100.0%

出典：IASR 2017年6月2日

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 29 年 6 月検出分;検体採取平成 29 年 3 月～平成 29 年 6 月)

平成 29 年 7 月 11 日

鳥取県衛生環境研究所

1 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体 6 件 (検体採取 2017 年 5 月中旬、下旬) について検査を行いました。ノロウイルスについては、1 件 (番号 170142) からノロウイルス GⅡが検出されました。ノロウイルスが検出されなかった検体 5 件について、サポウイルスの検査を実施したところ、1 件 (番号 170141) からサポウイルスが検出されました。さらに、ノロウイルス及びサポウイルスがいずれも検出されなかった 4 件について、A 群ロタウイルス、アデノウイルス 40/41 型、アイチウイルス及びアストロウイルスの検査を実施しましたが、いずれのウイルスも検出されませんでした。

2 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体 2 件 (疑いを含む。検体採取 5 月下旬、6 月上旬) について検査を行ったところ、1 件 (検体採取 6 月上旬・番号 170138) からアデノウイルス 64 型が検出され、残り 1 件からは検出されませんでした。また、前回検査中であった 1 件 (番号 170079) についても、アデノウイルス 64 型が検出されました。

3 咽頭結膜熱

臨床診断名が咽頭結膜熱・A 群溶血性連鎖球菌感染症の検体 1 件 (検体採取 5 月中旬・番号 170149) について検査を行ったところ、アデノウイルス 1 型が検出されました。

4 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎である検体 4 件 (流行性耳下腺炎の診断名もある 1 件を含む。検体採取 3 月中旬、4 月下旬、5 月中旬、下旬) について検査を行いました。ムンプスウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルス、ヘルペスウイルスについて検査を行ったところ、1 件 (番号 170153) からライノウイルス B が検出されました。(咽頭ぬぐい液と便から検出。髄液からは未検出)

5 A 群溶血性連鎖球菌感染症

臨床診断名が A 群溶血性連鎖球菌感染症の検体 4 件 (検体採取 5 月上旬、中旬) について検査を行ったところ、A 群溶血性連鎖球菌が 2 件 (番号 170148、170152) 分離されました。T 型別の結果はいずれも T4 型でした。

6 百日咳

臨床診断名が百日咳の検体 1 件（検体採取 6 月上旬・番号 170156）について検査を実施したところ、百日咳菌が検出されました。

7 流行性耳下腺炎

臨床診断名が流行性耳下腺炎の検体 1 件（検体採取 5 月中旬・番号 170150）について検査を実施しましたが、ムンプスウイルスは検出されませんでした。

8 手足口病

臨床診断名が手足口病の検体 1 件（検体採取 5 月中旬・番号 170151）について検査を実施しましたが、エンテロウイルスは検出されませんでした。

9 RS ウイルス感染症

臨床診断名が RS ウイルス感染症の検体 1 件（検体採取 5 月中旬・番号 170143）について検査を実施しましたが、RS ウイルスは検出されませんでした。

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 29 年 7 月検出分;検体採取平成 29 年 6 月～平成 29 年 7 月)

平成 29 年 8 月 8 日

鳥取県衛生環境研究所

1 手足口病

臨床診断名が手足口病の検体 6 件（検体採取 6 月中旬、7 月上旬）について検査を実施したところ、3 件（番号 170164、170167、170172）からコクサッキーウイルス A6、1 件（番号 170163）からライノウイルス A が検出されました。

病原微生物検出情報（7 月 28 日作成）によると、本年、国内の手足口病患者から分離・検出されたウイルスの中で、コクサッキーウイルス A6 が最も多く報告されています。

*各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した

IASR

Infectious Agents Surveillance Report

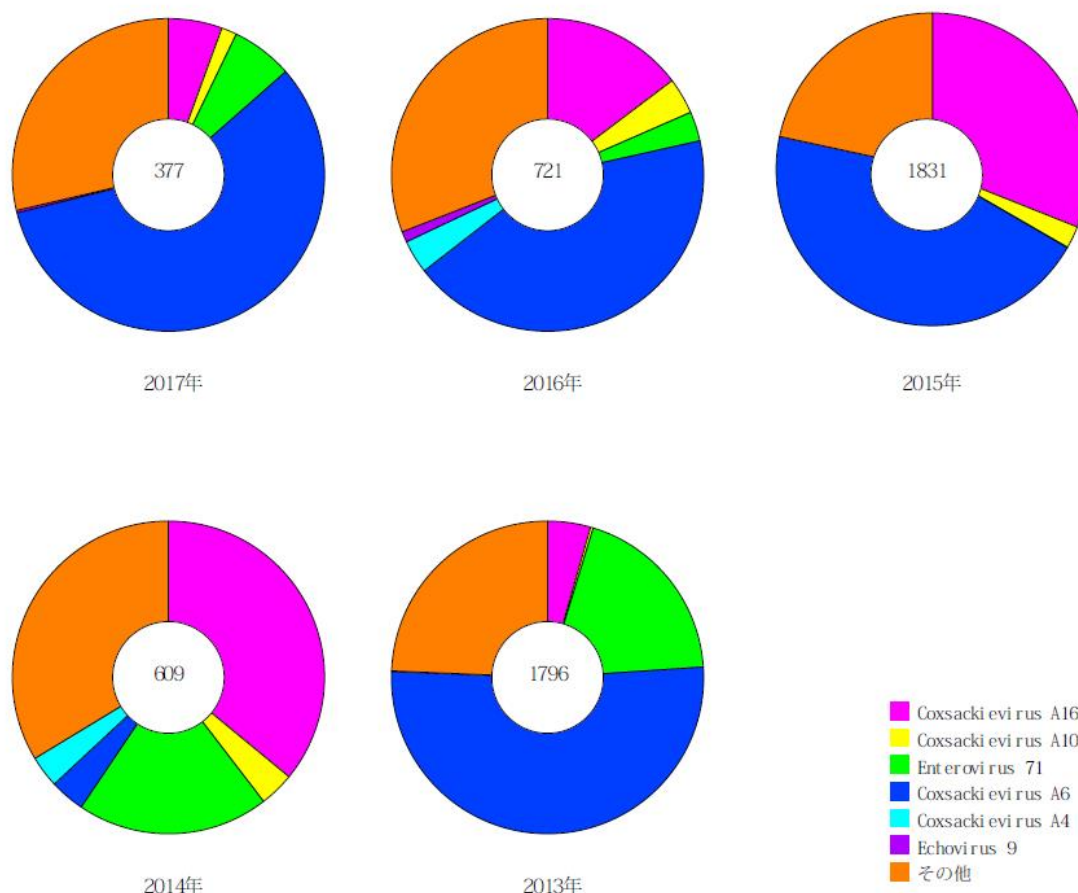


図1 手足口病患者から分離・検出されたウイルス（2013年～2017年）

2 ヘルパンギーナ

臨床診断名がヘルパンギーナの検体2件（検体採取6月下旬、7月上旬）について検査を実施したところ、1件（番号170171）からコクサッキーウイルスA6が検出されました。

病原微生物検出情報（7月28日作成）によると、本年、国内のヘルパンギーナ患者から分離・検出されたウイルスの中で、コクサッキーウイルスA6が最も多く報告されています。

*各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を円に示した

IASR

Infectious Agents Surveillance Report

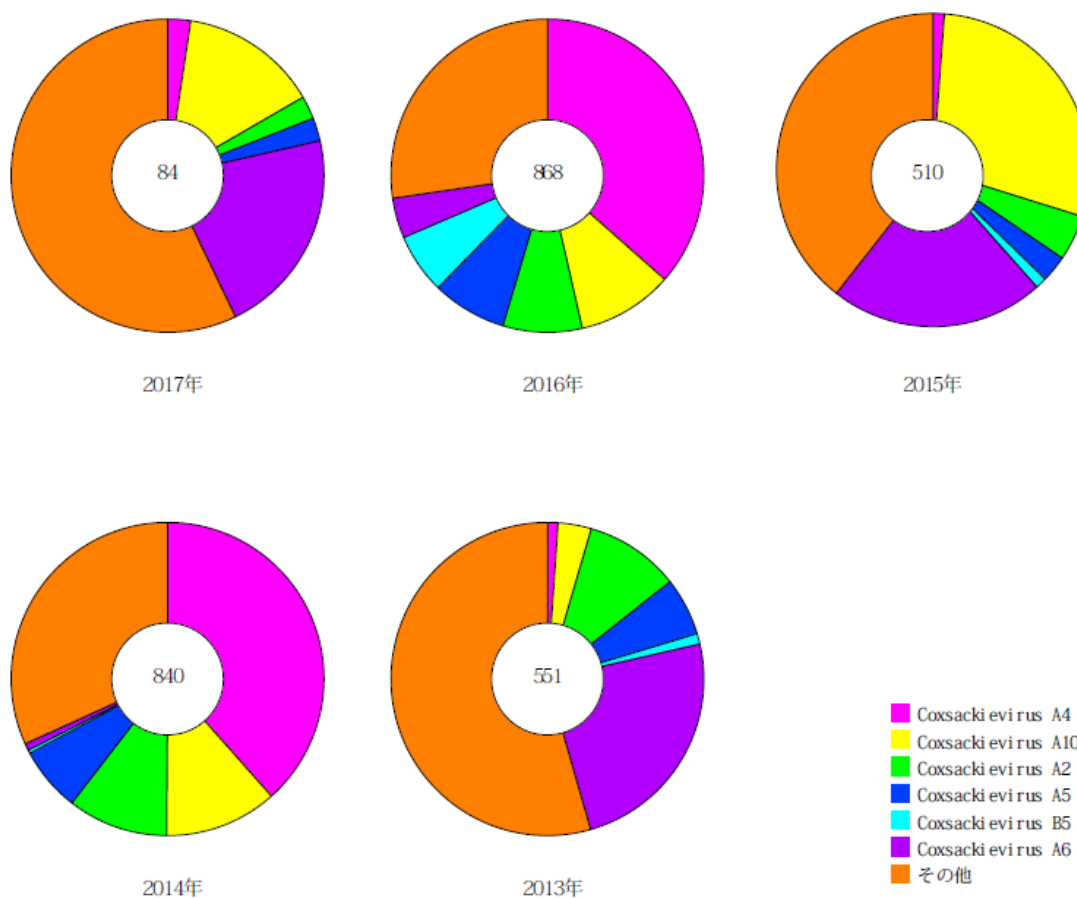


図2 ヘルパンギーナ患者から分離・検出されたウイルス（2013年～2017年）

3 咽頭結膜熱

臨床診断名が咽頭結膜熱の検体1件（検体採取6月中旬・番号170169）について検査を行ったところ、アデノウイルス5型が検出されました。

病原微生物検出情報（7月28日作成）によると、本年、国内の患者から分離・検出されたアデノウイルスの中では、2型、3型、1型が多く報告されています。

*各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した

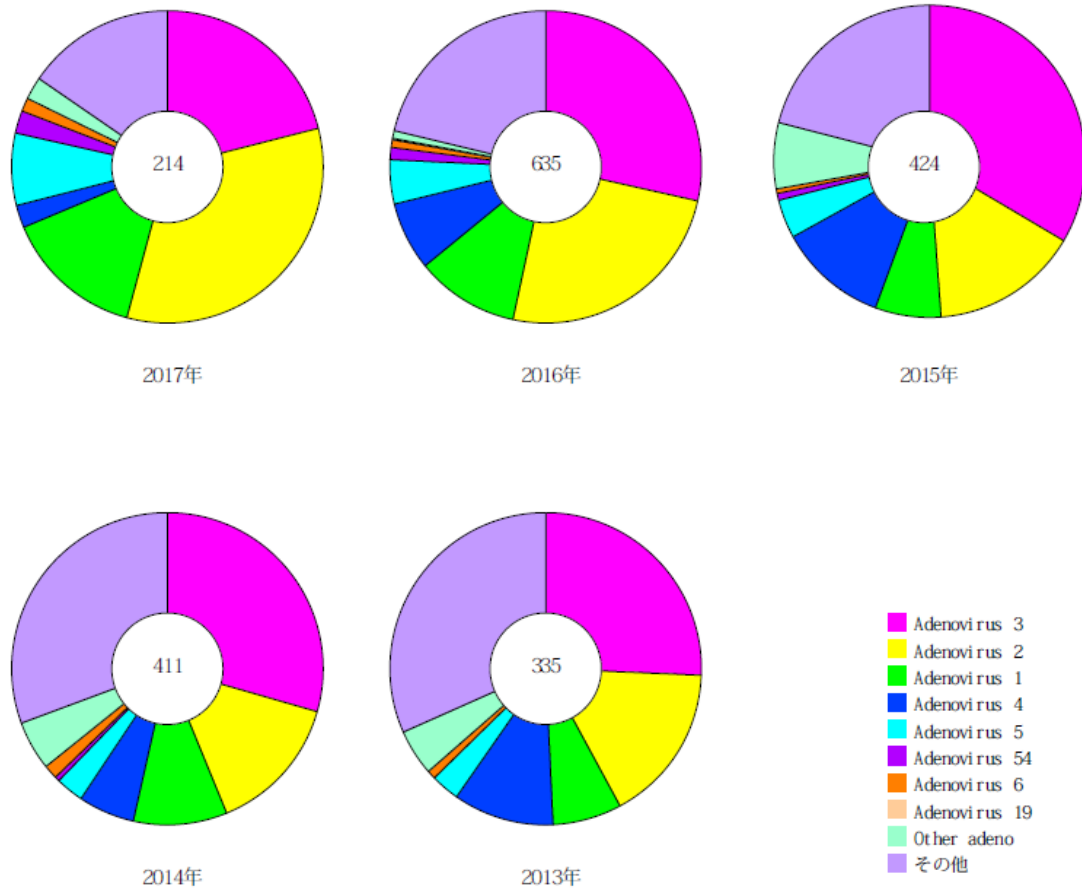


図3 咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルス（2013年～2017年）

4 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎（疑）の検体1件（検体採取7月上旬・番号170179）について検査を行ったところ、アデノウイルスは検出されませんでした。

5 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体5件（検体採取2017年6月上旬、中旬、下旬、7月上旬）について検査を行いました。ノロウイルスについては、2件（番号170160、170161）からノロウイルスGⅡが検出されました。ノロウイルスが検出されなかった検体3件について、A群ロタウイルスの検査を実施したところ、1件（番号170141）からA群ロタウイルスが検出されました。さらに、ノロウイルス及びA群ロタウイルスがいずれも検出されなかった2件について、サポウイルス、アデノウイルス40/41型、アイチウイルス及びアストロウイルスの検査を実施しましたが、いずれのウイルスも検出されませんでした。

6 ロタウイルス感染性胃腸炎について

臨床診断名がロタウイルス感染性胃腸炎の検体 1 件（検体採取 2017 年 6 月下旬・番号 170162）について検査を行いましたところ、A 群ロタウイルスが検出されました。

7 A 群溶血性連鎖球菌感染症

臨床診断名が A 群溶血性連鎖球菌感染症の検体 2 件（検体採取 6 月上旬、中旬）について検査を行ったところ、A 群溶血性連鎖球菌が 1 件（番号 170173）分離されました。T 型別の結果は T1 型でした。

病原微生物検出情報（8 月 4 日作成）によると、本年、国内で分離された A 群溶血性連鎖球菌の中では、T1 型が最も多く報告されています。

*各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した

IASR

Infectious Agents Surveillance Report

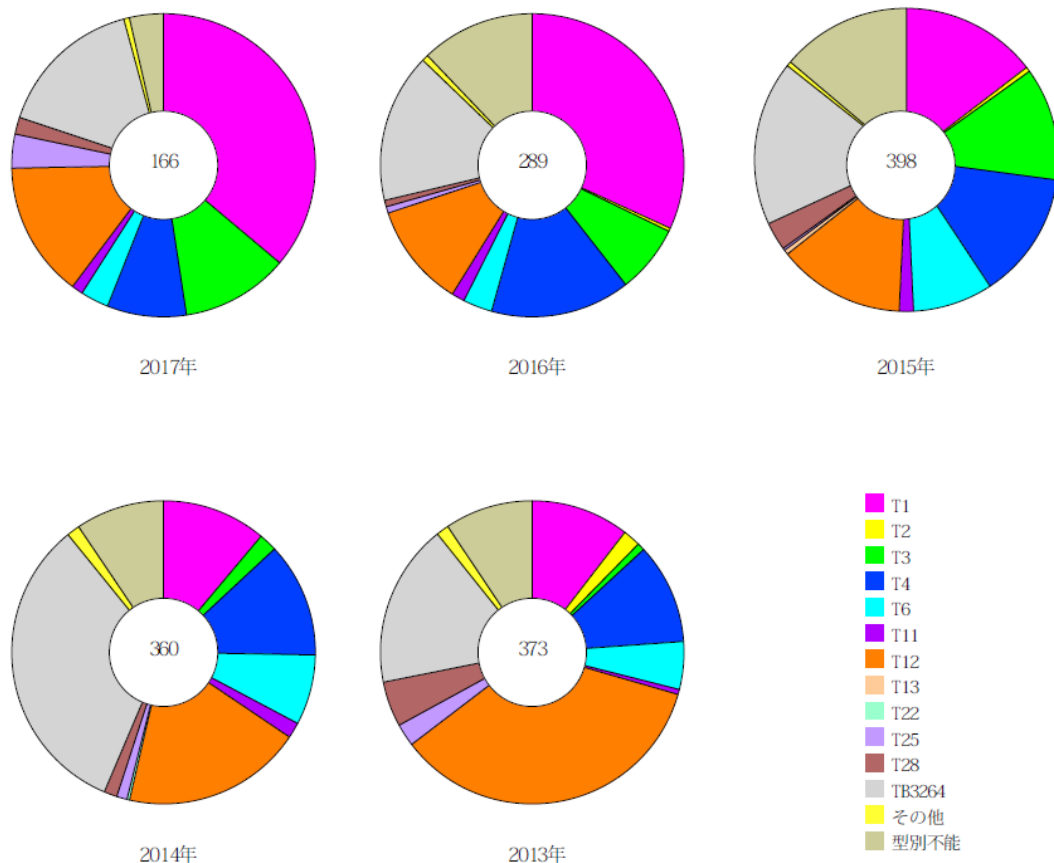


図4 A 群溶血性連鎖球菌 T 血清型割合（2013 年～2017 年）

8 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎である検体 3 件（検体採取 6 月上旬、下旬）について検査を

行いました。ムンプスウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルス、ヘルペスウイルスについて検査を行ったところ、1件（番号170176）からムンプスウイルスが検出されました。

9 細菌性髄膜炎

臨床診断名が細菌性髄膜炎の検体1件（検体採取6月下旬・番号170175）について、病原菌検索を行うため、5%羊血液加トリプトソイ寒天培地にて培養を行いましたが、菌培養は陰性でした。

10 突発性発疹

臨床診断名が突発性発疹の検体1件（検体採取6月中旬・番号170177）について検査を実施したところ、ヘルペスウイルスは検出されませんでした。

鳥取県病原微生物検出情報

(平成 29 年 8 月検出分;検体採取平成 29 年 7 月～8 月)

平成 29 年 9 月 12 日

鳥取県衛生環境研究所

1 手足口病

臨床診断名が手足口病の検体 3 件 (検体採取 7 月上旬、中旬) について検査を実施したところ、3 件 (番号 170191、170196、170197) すべてからコクサッキーウイルス A6 が検出されました。

全国の手足口病患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報 (9 月 1 日作成) によると、2013 年から、2014 年を除き、コクサッキーウイルス A6 が最も多く報告されています。

*各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した



図1 手足口病患者から分離・検出されたウイルス (2013 年～2017 年)

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数 (本年は9月1日までに報告された数)

2 ヘルパンギーナ

臨床診断名がヘルパンギーナの検体3件（検体採取7月上旬、8月上旬）について検査を実施したところ、1件（番号170190）からコクサッキーウイルスA6、1件（番号170198）からコクサッキーウイルスA5、1件（番号170193）からライノウイルスBが検出されました。

全国のヘルパンギーナ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（9月1日作成）によると、2013年、2015年及び本年で、コクサッキーウイルスA6が最も多く報告されています。

*各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した

IASR
Infectious Agents Surveillance Report

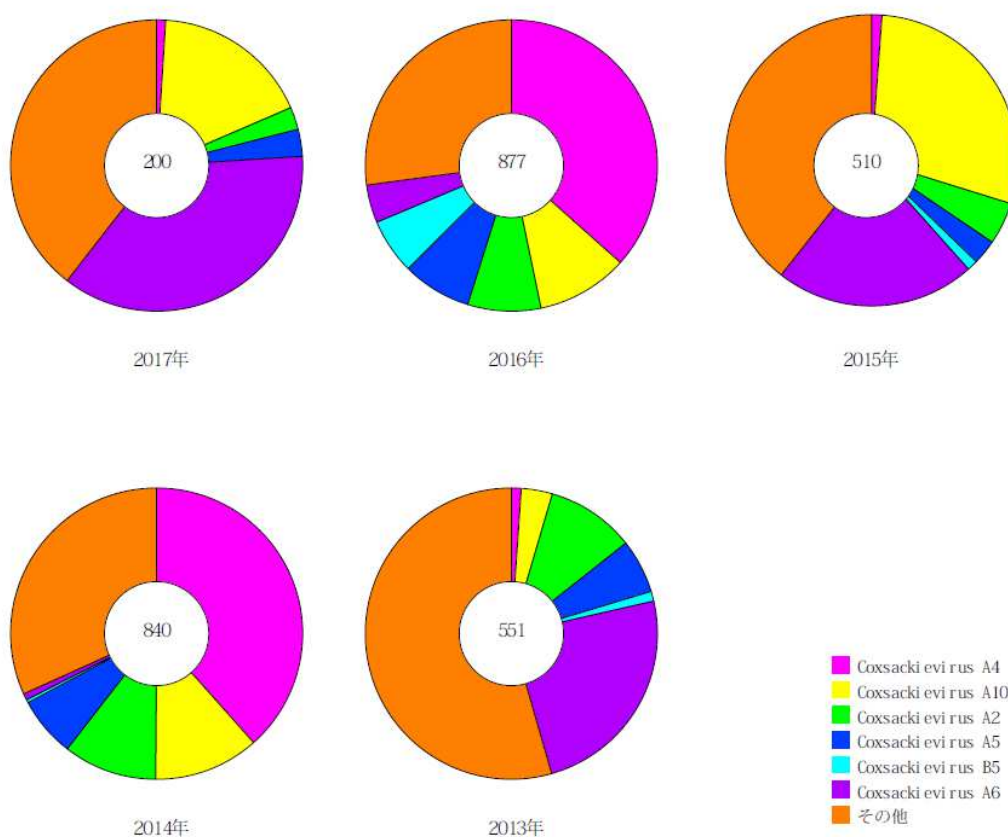


図2 ヘルパンギーナ患者から分離・検出されたウイルス（2013年～2017年）

*円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年は9月1日までに報告された数）

3 流行性角結膜炎

臨床診断名が流行性角結膜炎の検体 3 件（検体採取 7 月中旬・下旬）について検査を行ったところ、アデノウイルスが 2 件分離され、残り 1 件からは分離検出されませんでした。分離された 2 件は、1 件（番号 170185）は 4 型で、1 件（番号 170186）は 3 型でした。

全国の流行性角結膜炎患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（9 月 1 日作成）によると、2015 年から本年では、54 型が最も多く、3 型はそれに次ぎ、4 型は少ない報告数となっています。

* 各都道府県市の地方衛生研究所からの分離／検出報告を図に示した

IASR
Infectious Agents Surveillance Report

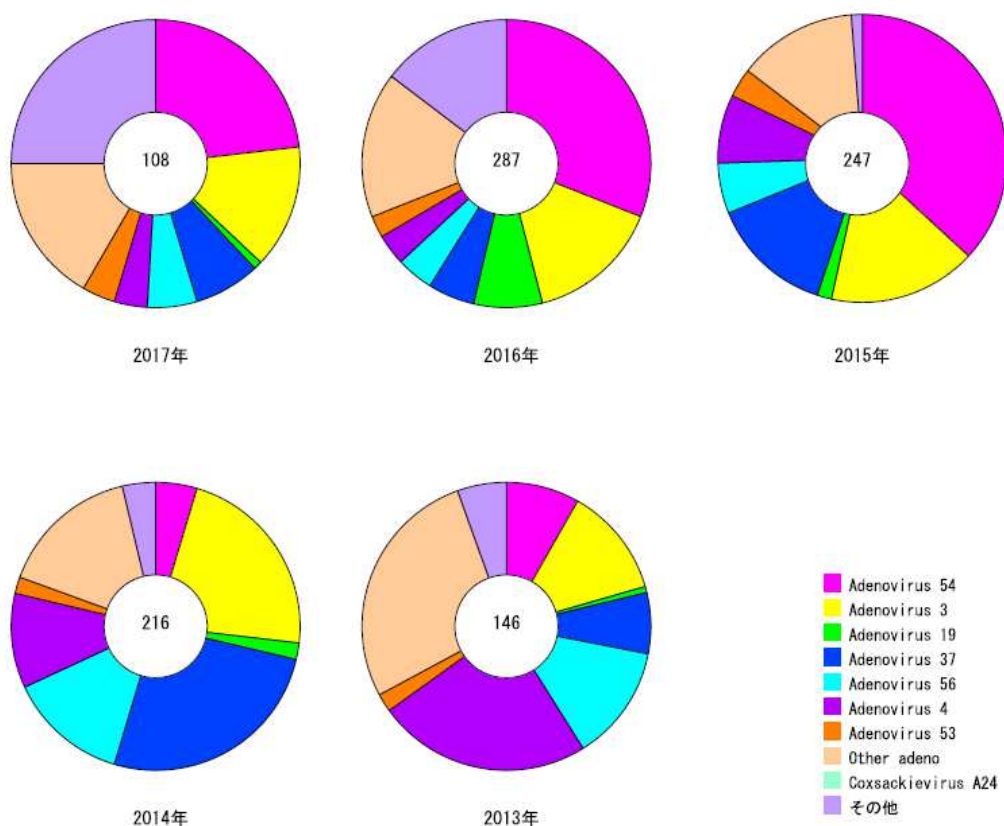


図 3 咽頭結膜熱患者から分離・検出されたウイルス（2013 年～2017 年）

* 円グラフの中の数字は各年ごとの分離・検出報告の総数（本年は 9 月 1 日までに報告された数）

4 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体 3 件（検体採取 7 月上旬、中旬、下旬）について検査を行いました。ノロウイルスについては、2 件（番号 170187、170199）からノロウイルス G II が検出されました。ノロウイルスが検出されなかった検体 1 件について、A 群ロタウイルス、サポウイルス、アデノウイルス 40/41 型、アイチウイルス及びアストロウイルスの検

査を実施しましたが、いずれのウイルスも検出されませんでした。

5 ロタウイルス感染性胃腸炎について

臨床診断名がロタウイルス感染性胃腸炎の検体 1 件（検体採取 7 月上旬・番号 170180）について検査を行いましたところ、A 群ロタウイルスが検出されました。

6 A 群溶血性レンサ球菌感染症

臨床診断名が A 群溶血性レンサ球菌感染症の検体 1 件（検体採取 7 月上旬・番号 170194）について検査を行いました。A 群溶血性レンサ球菌は分離されませんでした。

7 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎である検体 1 件（検体採取 7 月下旬・番号 170188）について、ムンプスウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルス、ヘルペスウイルスの検査を行いました。その結果、これらのウイルスは検出されませんでした。

8 RS ウイルス感染症

臨床診断名が RS ウイルス感染症の検体 1 件（検体採取 7 月下旬・番号 170180）について検査を行いました。RS ウイルスは検出されませんでした。

9 突発性発疹

臨床診断名が突発性発疹の検体 1 件（検体採取 7 月上旬・番号 170181）について検査を行いました。ヘルペスウイルスは検出されませんでした。

10 インフルエンザ様疾患

臨床診断名がインフルエンザ様疾患の検体 3 件（検体採取 7 月上旬・番号 170183、170184、170192）について検査を行いました。インフルエンザウイルスは検出されませんでした。